

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

鹿児島県 奄美市

自治体名：鹿児島県奄美市

担当課名：学校教育課

電話番号：0997-52-1128

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	308 km ²
人口	40,249 人
公立中学校数	12 校
公立中学校生徒数	1,133 人
部活動数	51 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、本市の運動部活動は、13種目からなる51部活動がある。

少子化に伴い、5校4チームの合同チームも存在する。

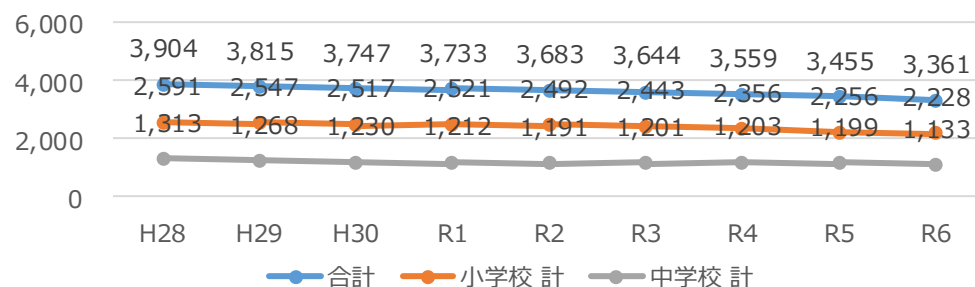
昨今の生徒数の推移を見ると、団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。元々、全校生徒が100人を超える学校は、12校中5校しかなく、それ以外の7校は、一桁台3校含む小規模校ばかりである。

改革推進期間である3年間で、「令和8年度から、可能な限りの『休日の部活動地域移行』を目指す。」として、中学校部活動の地域

移行と同時に、教職員の働き方改革の推進にも取り組んでいる。

また、長年にわたって部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いている。実際に部活動地域座談会をととしても、まだまだ部活動に対する期待感は大いと感じた。今後、地域移行に当たり部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要であり、同時に地域移行推進にあたって学校の教職員以外の地域内の指導者の発掘及び確保、そして、新たな体制づくりを同時に進めていかなければならない。

奄美市児童・生徒数の推移



【課題】

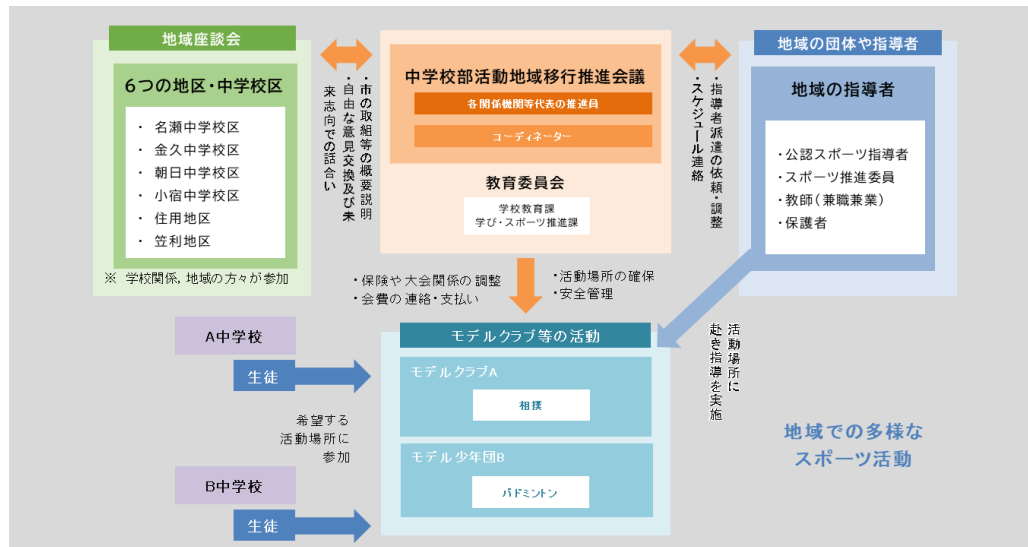
現在の奄美市の児童・生徒数の推移を鑑みると、今後も、減少傾向は続くことが想定される。

出典:学校基本調査より

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動改革の主幹，学校との調整・連携，学校に関する事項について
- ・学び・スポーツ推進課…中学生の地域文化活動の環境整備

◎首長部局

- ・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年6月	大島地区中学校総合体育大会相撲競技視察
令和6年8月	第1回奄美市中学校部活動地域移行推進会議
令和6年11月	部活動地域座談会（住用地区）
令和6年11月	部活動地域座談会（朝日中学校区）
令和6年12月	第2回奄美市中学校部活動地域移行推進会議
令和6年12月	部活動地域座談会（笠利地区）
令和6年12月	部活動地域座談会（名瀬中学校区）
令和7年1月	部活動地域座談会（金久中学校区）
令和7年2月	部活動地域座談会（小宿中学校区）
令和7年2月	第3回奄美市中学校部活動地域移行推進会議

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	12 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（2 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	3 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
赤木名中相撲クラブ	クラブ	相撲	月20回／週5回（など）	平日 17:00～19:00 休日 10:00～12:00	1年 2人 2年 9人 3年 1人	4月～3月	赤木名中道場	1人	1人	月会費 1,000 円／ 年会費 1,200 円 （など）	地域クラブ
崎原バドミントンスポーツ少年団	スポーツ少年団	バドミントン	月12回／週3回（など）	平日 16:00～18:00	1年 1人 2年 4人 3年 3人	4月～3月	崎原小中学校体育館	2人	2人	月会費500円／ 年会費 6,000 円 （など）	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 赤木名中相撲クラブ・・・県総合体育大会へ5人出場
- 崎原バドミントンスポーツ少年団・・・県総合体育大会へ4人出場

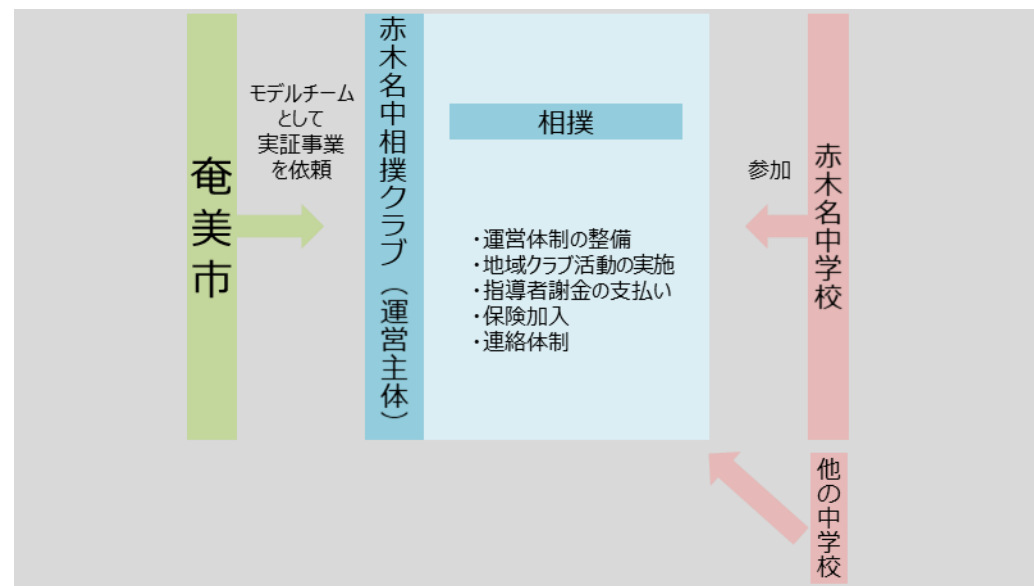
2.実証内容と成果

主な取組例

●赤木名中相撲クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	相撲
運営団体名	赤木名中相撲クラブ
期間と日数	相撲：4月1日～3月31日 月20回程度
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	赤木名中学校
主な移動手段	徒歩及び自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：クラブの運営管理を行う

●主任指導者 1名

役割：指導全般を行う

●運営補助者 1名

役割：指導者や生徒の補助を行う

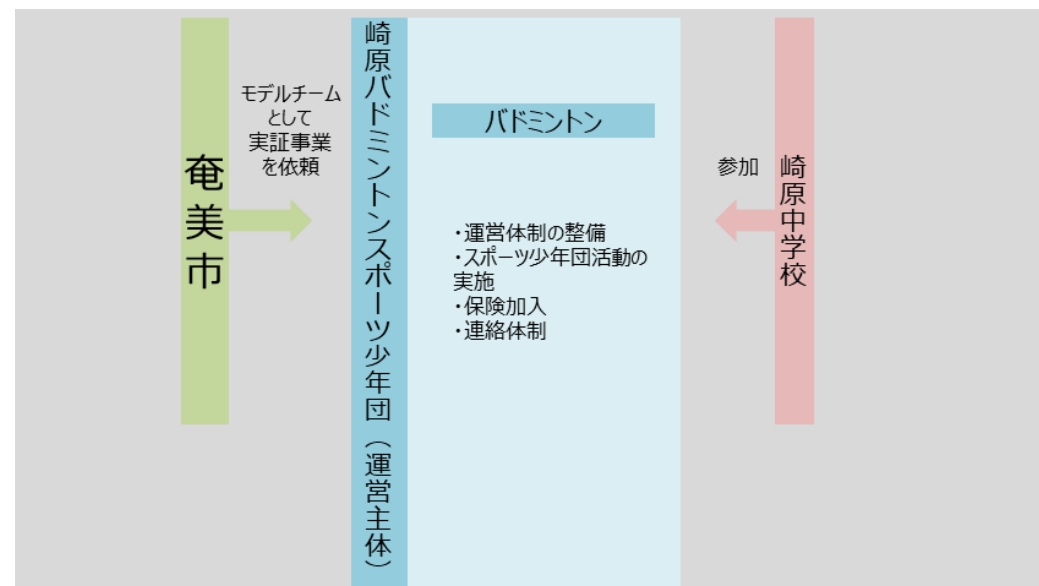
2.実証内容と成果

主な取組例

● 崎原バドミントンスポーツ少年団 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン
運営団体名	崎原バドミントンスポーツ少年団
期間と日数	バドミントン：4月1日～3月31日 月12回程度
指導者の主な属性	小学校職員，地域指導者
活動場所	崎原小中学校
主な移動手段	徒歩及び保護者の送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	6,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● 統括責任者

役割：スポーツ少年団の運営管理を行う

● 主任指導者 1名

役割：指導全般を行う

● 運営補助者 1名

役割：指導者や生徒の補助を行う

2.実証内容と成果①

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

本市中学校部活動地域移行推進会議の開催を年3回開催する。

推進会議のメンバーは、概ね令和5年度と同じメンバーとした。

併せて、部活動地域座談会を6つの地区・中学校区で開催した。

取組の成果

・3回の部活動地域移行推進会議をととして、本市における予算確保（受益者負担含む）、人材確保、場所の確保等について話し合い、具体的な移行に向けた確認ができた。

・令和6年度の取組をととして把握した予算確保、人材確保等の課題について、令和7年度に検証を進める内容について、推進会議内で情報共有ができた。

・6つの地区・中学校区で開催した部活動地域座談会では、学校関係者だけではなく、地域の様々な方々の貴重な意見等、生の声を聴くことができた。地域クラブの年齢層や移動手段等、各地区でそれぞれ抱えている課題を一部であるが把握することができた。

・部活動地域移行推進会議及び部活動地域座談会をととして、これまで把握していなかった新たな地域クラブの把握や、新クラブ立上げに向けたきっかけとなる手応えがあった。

今後の課題と対応方針

・令和5年度～令和6年度と2年間の部活動地域移行推進会議の開催をととして、令和8年度へ向けた方針の確認や具体的な取組について、令和7年度は更に議論を加速させていく必要がある。

・部活動地域移行推進会議と併せて部活動地域座談会の開催も行い、各地域での協議会設置へつなげていく。



【部活動地域移行推進会議の委員も参加した部活動地域座談会】

2.実証内容と成果③

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

部活動地域座談会実施要項

奄美市中学校の部活動地域移行・地域連携についての地域座談会実施要領

1 目的

少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保していく必要がある。
そのために、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様なスポーツ・文化芸術活動に取り組める環境を整えていかなければならない。
また、同時に、学校の働き方改革推進の観点から、教員の負担を軽減し、学校教育の質を更に向上させていく必要がある。
こうした課題の解決に向けて、地域の教育・スポーツ指導等に携わる関係者が集まり、様々な視点から本市の将来的な生徒のスポーツ・文化芸術活動に取り組む環境づくりについて意見交換を行う。

2 地域区分

- (1) 名瀬中学校区（大川中学校・崎原中学校を含む）
- (2) 金久中学校区
- (3) 朝日中学校区（芦花部中学校を含む）
- (4) 小宿中学校区
- (5) 住用地区（住用中学校、市中学校、東城中学校）
- (6) 笠利地区（赤木名中学校、笠利中学校）

3 対象者

- (1) 各中学校長、各中学校教頭
- (2) 各中学校部活動顧問等
- (3) 各中学校部活動保護者会長等
- (4) 各中学校 PTA 役員等
- (5) 地域のスポーツ・文化芸術活動に携わる指導者（スポーツ少年団・クラブチーム指導者等）
- (6) 地域のスポーツ関係者等（地区体育協会、スポーツ推進委員等）
- (7) 奄美市中学校部活動地域移行推進会議委員（コーディネーター含む）

4 実施時期

令和6年11月～令和7年2月

5 内容

- (1) 中学校部活動地域移行・地域連携の概要（国・県、本市の取組等）
- (2) 意見交換（全体又はグループ）
※ 一つの答えを出すのではなく、様々な視点から未来志向で意見を出し合う。
- (3) 全体で出された意見の共有

令和6年度の地域座談会を終えて

1 開催地区・場所及び日時

- (1) 住用地区（場所：住用総合支所） 令和6年11月20日（水）19時00分～20時30分
- (2) 朝日中学校区（場所：朝日中学校） 令和6年11月25日（月）19時00分～20時30分
- (3) 笠利地区（場所：笠利総合支所） 令和6年12月13日（金）18時30分～20時00分
- (4) 名瀬中学校区（場所：名瀬中学校） 令和6年12月19日（木）18時30分～20時00分
- (5) 金久中学校区（場所：金久中学校） 令和7年1月31日（金）18時00分～19時30分
- (6) 小宿中学校区（場所：小宿中学校） 令和7年2月7日（金）18時00分～19時30分

2 参加者数

176人（117人：推進委員及び教育委員会を除く）

3 現状の課題（座談会を終えて）

- (1) 部活動地域移行・地域連携についての周知不足
 - ・部活動指導員と外部指導者の違い
 - ・クラブチームの定義及び活動範囲等
- (2) 部活動への期待
 - ・教員の関り、活動をととした人間的な成長
- (3) 平日と休日の指導者の指導方針の違いへの懸念
- (4) 部活動地域移行・地域連携に向けた行政側の予算確保への期待
- (5) 活動場所確保への懸念
- (6) 部活動顧問の負担軽減

4 今後の課題及び検討事項

- (1) 本市の目指す方向性に向けた取組強化
- (2) 行政・地域・学校の連携した取組の構築
- (3) 地域移行における責任所在の周知
- (4) 運営費の在り方の検討
- (5) 指導者確保の検討
- (6) 活動場所確保の検討
- (7) 各地区の競技団体等における自主的な協議

2.実証内容と成果④

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

部活動地域座談会の参加者からあった主な質問や意見（第1回、第2回を終えて）

【質問】

- ・住用の子供達も、近い名瀬中学校に通って部活動ができないのか。
- ・地域移行となれば、指導者の都合で、開始時間が遅くなり、夜型になるのではないのか。
- ・送迎の問題が挙がっていたが、本年より「住用地区交通空白地有償運送」（三太郎タクシー）が運行しているので、活用できたら保護者負担の軽減につながるのではないのか。
- ・令和9年度より中体連の全国大会で実施しない競技もでてくる。その辺は高校進学にどう響いてくるのか。
- ・どのように国や県の補助金を使っているのか。
- ・スポーツ少年団は中体連に参加できるのか。
- ・今後モデル校を増やす予定はあるのか。
- ・平日はどうなるのか。また、土日の大会等はどうするのか。
- ・予算は大丈夫か。受益者負担になるのか。
- ・外部指導員は単独で指導できるのか。
- ・部活動指導員になるにはどうすればいいのか。
- ・小学校を卒業した中学生が、小学校のスポ少に参加できるのか。

【意見】

- ・本当に子供がやりたいスポーツとして部活動が確立できるのが望ましい。
- ・幅広い年齢層が楽しく実施できるニュースポーツは、子供たちと一緒に取り組みやすく、そうして幅広い年齢層でスポーツ実施できることはいいことだと思う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・コーディネーターを中心とした関係団体・分野との連携を通して、本市部活動地域連携・地域移行を進めていく。
- ・部活動地域座談会へ参加してもらい、部活動地域移行についての周知活動や情報収集等をしてもらう。

取組の成果

- ・関係団体・分野との連携を通して、本市部活動地域連携・地域移行を少しずつではあるが進めることができた。特に、関係団体との連携は、具体的な指導者の把握等、次年度につながる取組であった。
- ・部活動地域座談会への参加をとおして、地域の方々に対する部活動地域移行・地域連携についての周知活動と一緒に担っていただき、地域における部活動地域移行に対する課題等を共有でき、理解が深まった。
- ・部活動地域座談会において、概要説明や意見交換・グループ協議等を行ったが、それらの活動をとおして、次年度の活動につながる貴重な情報収集ができた。

今後の課題と対応方針

- ・今年度は、コーディネーター配置の初年度ということもあって、限定的な活動となった。来年度は、関係団体との更なる連携をはじめ、部活動地域座談会においても、地域におけるクラブチーム等の立上げについて、積極的に助言等を行ってみたいと考えている。
- ・実証事業の内容についても、積極的に関わってもらい、更に協力して部活動地域移行を進めていきたい。



【コーディネーターも参加しての部活動地域座談会（左：金久中校区 右：小宿中校区）の様子】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

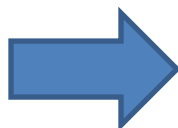


取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

予定取組事項

参加費用の負担軽減を図るため、事業を活用してスポーツ安全保険負担の支援を行う。



今年度、取組を予定していたが、「スポーツ安全保険負担の支援」は、執行できなかった。

令和6年度地域クラブの主な経費（2団体分）

- | | |
|----------|--------------------------|
| 1 月謝 | 500円～1,000円 |
| 2 団体登録料 | 14,900円 |
| 3 指導者登録料 | 13,300円 |
| 4 保険料 | 生徒一人800円
指導者等一人1,850円 |
| 5 指導者謝金 | 1,600円／1h |

※ 2つの団体とも、場所は学校を利用しているため、費用が発生していない。

取組をとおして分かったことと今後の課題

今回の取組をとおして、地域クラブの運営において、どのような費用が必要になるか、おおよそ把握することができた。クラブ運営に係る収入について言えば、月謝が一人500円～1,000円であったが、これでは、指導者の謝金や交通費等を賄うことは到底できない。実証事業の予算補助があるからこそ、今年度は、これらを支払うことができた。以前、本市で、民間による「放課後クラブ（仮称）」といった部活動に加入していない生徒向けのクラブを立ち上げる構想があり、月謝が約5,000円程になる予定であった。募集を行ったが、結局、クラブを運営するだけの人数が集まらず、クラブ開設には至らなかった。クラブ運営のために、単純に月謝を上げて、当然ながら人は集まって来ない。

クラブチーム運営のための予算確保については、受益者負担だけではなく、他の方法による資金集めの方法も考えていかなければならない。これは、クラブ運営者がこの地域の実態に合った様々な方法を模索していかなければならない。本市としても、可能な限り、解決方法を一緒に考え、サポートしていければと考えている。お互い様々な知恵を出し合って、この問題の解決に一步步前進していきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

部活動地域移行推進会議や部活動地域座談会等の開催をととして、現在本市が抱えている部活動地域移行に向けた課題等が見えてきた。

特に、6つの地区・中学校区で開催した部活動地域座談会では、学校関係者だけではなく、地域の様々な方々の貴重な意見等、生の声を聴くことができ、地域クラブの年齢層や移動手段等、各地区でそれぞれ抱えている課題を一部であるが把握することができた。

また、部活動地域移行推進会議及び部活動地域座談会をととして、これまで把握していなかった新たな地域クラブの把握や、新クラブ立上げに向けたきっかけとなる手応えがあった。

コーディネーターにも、これらの活動に参加してもらい、部活動地域移行に関する情報共有や今後に向けた方針の確認等を行うことができた。

モデルクラブチーム等については、予算面で補助することができた。

●成果の評価

【部活動地域移行推進会議の開催】

当初は5回の開催を計画していたが、部活動地域座談会の開催も地区の協議会設置へ向けた大切なステップと考え、3回の開催に留め、部活動地域座談会を6回開催した。

各開催を終え、また新たな課題の把握等につながり、次年度につながる活動となった。

【モデルクラブチーム】

1クラブチームと1スポーツ少年団チームの2団体にお願ひし、モデルチームとして活動してもらった。運営の補助をすることができ、また、クラブチームの運営に必要な予算を把握することにもつながった。

●今後に向けて

本市は、改革推進期間である令和5年度～7年度の活動をととして、令和8年度から、可能な限りの「休日の部活動地域移行」を目指し、取り組んでいる。

部活動地域座談会をととして把握した、各地区の様々な課題について、学校や地域と連携を図りながら、一つずつ解決に向けて取り組んでいきたいと考えている。

特に、地区の協議会設置は、本市における部活動地域移行を進める上で大きな鍵になるのではと感じている。

持続可能で、スポーツを楽しみたい子供たちに対応できる「奄美市モデル」の確立を目指していきたい。

2.実証内容と成果②

「実証事業」活動の様子



【崎原バドミントンスポーツ少年団生徒の日々の練習の様子】



【崎原バドミントンスポーツ少年団生徒の県総体出場の様子】

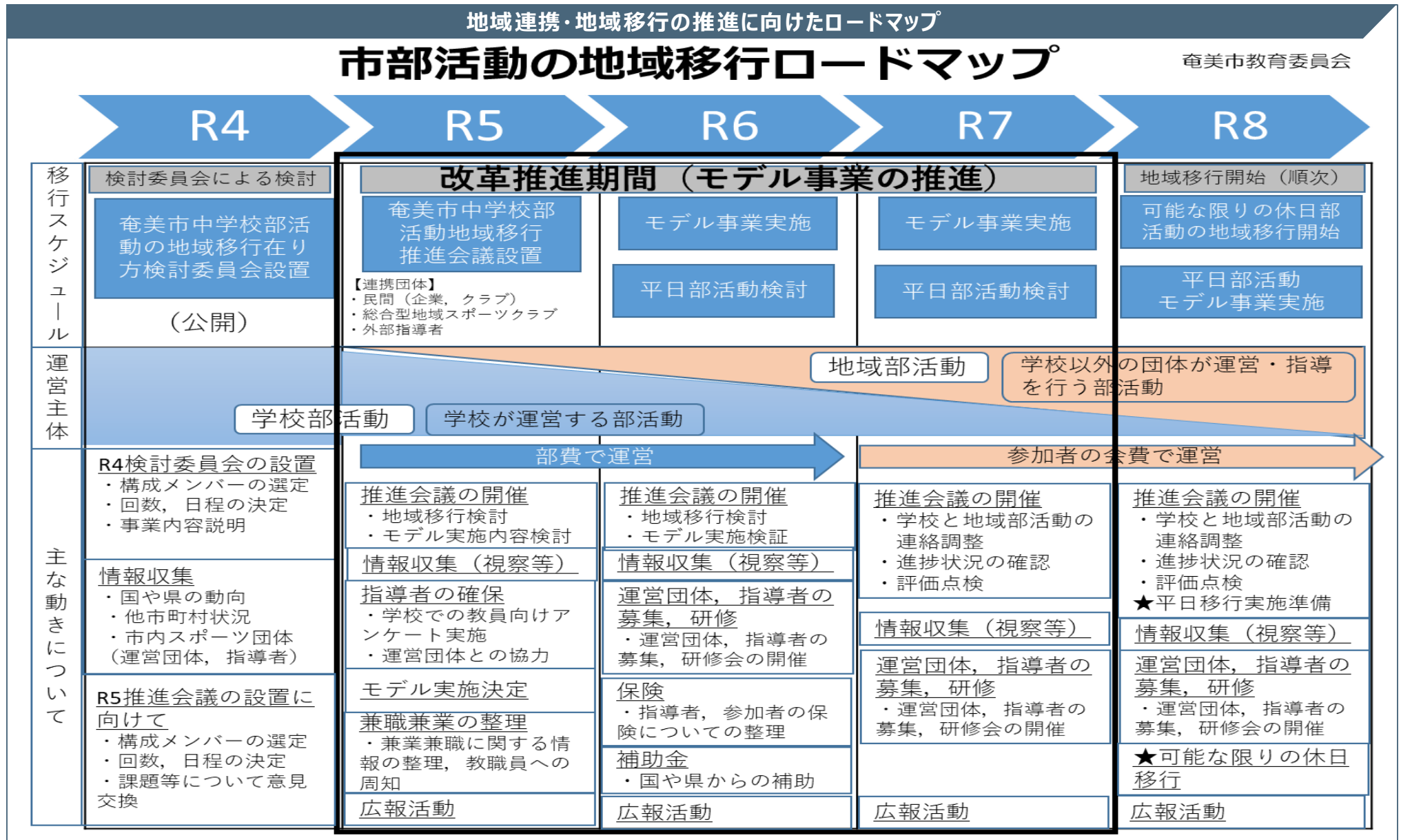


【赤木名中相撲クラブ練習の様子】



【部活動地域座談会（名瀬中学校区）の様子】

3.今後の方向性



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

鹿児島県 長島町

自治体名：鹿児島県長島町

担当課名：学校教育課

電話番号：0996-88-5525

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	116 km ²
人口	9,378 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	255 人
部活動数	14 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本町は、鹿児島県の最北端に位置し、離島を有する町である。

現在、本町の運動部活動は、軟式野球部、バレーボール部、サッカー部、ソフトテニス部、卓球の5種目が活動している。

少子化に伴い、団体種目のほとんどが、本町及び近隣の市の中学校と合同チームで試合に出場している現状が続いている。

また、中学校によっては、新規入部の募集を停止し、終了した部活動も見られたり、サッカー部においては、本町全体で部員数が1名であるた

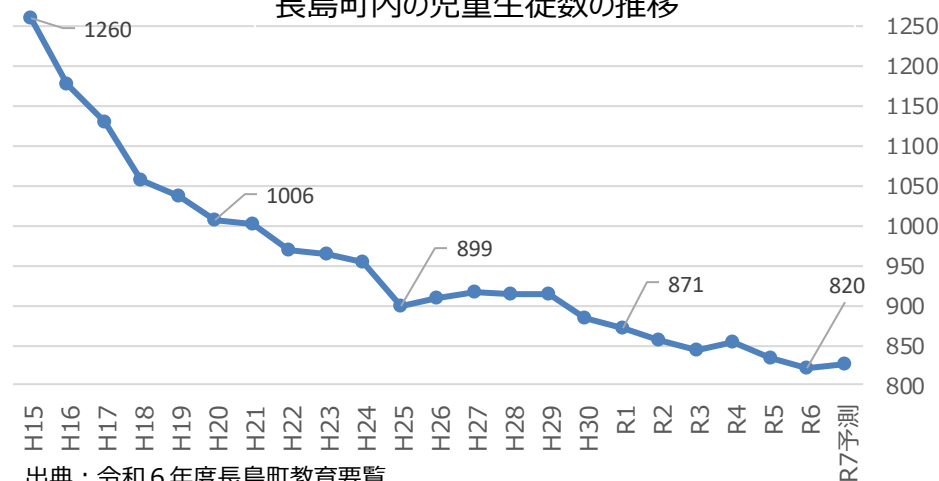
め、普段の練習にも苦慮している状態が続いている。

さらに、指導者の確保にも課題があり、人材の確保が急務である

このような状況を鑑みると、団体競技の存続について、単独の中学校では難しいものと考えている。

今後、部活動地域移行を推進する中で、地域との連携を図りながら、指導者の確保や運営の基盤を整備し、続可能な活動の体制づくりを進めていく必要がある。

長島町内の児童生徒数の推移



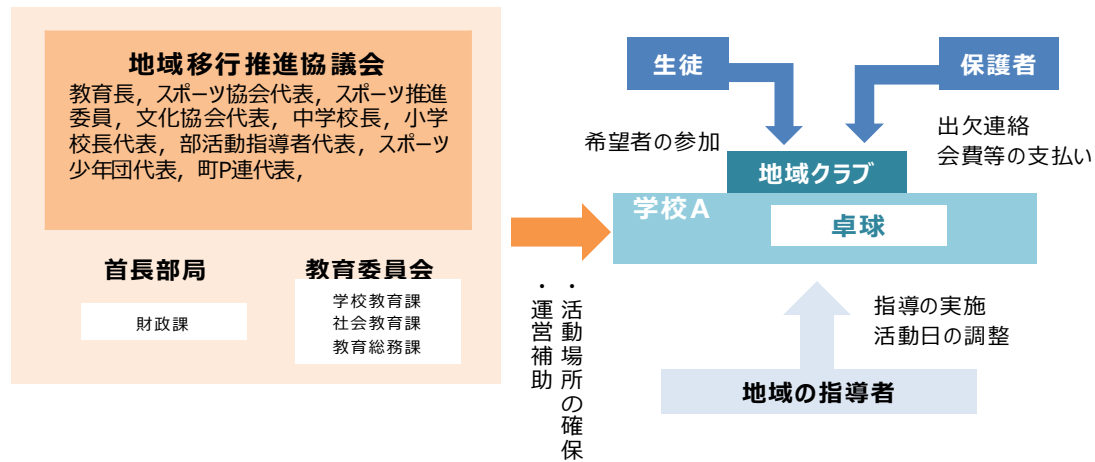
【課題】

平成15年からの30年間でおよそ35%の児童生徒が減少している。今後も微小な増減を繰り返しながら減少されることが予想される。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課—部活動地域移行の主幹、学校との調整、地域クラブへの補助
- ・社会教育課—地域活動の環境整備等
- ・教育総務課—地域クラブに関する助言

◎首長部局

- ・財政課—予算措置等

年間の事業スケジュール

令和6年1月	中学校部活動に関するアンケート実施
令和6年4月	地域クラブ(卓球)活動開始
令和6年11月	地域移行推進協議会 令和7年度実施開始の地域クラブ（男子バレーボール・陸上競技）決定
令和7年1月	地域指導者に関するアンケート実施
令和7年3月	令和7年度実施の地域クラブ（卓球・男子バレーボール・陸上競技）への説明会、指導方法に関する講習会を実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ（0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	2 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間 時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
獅子島卓球 クラブ	地域クラブ (小中学生 含む)	卓球	平日 4 日/週 土日 1 日/週	5 : 00 ～ 7 : 00	中 1 - 1 名	R6.4.1 ～ R7.3.31	獅子島小 中学校	2 人	2 名	年会費 1500 円 月会費 大会に応じて	地域クラブ

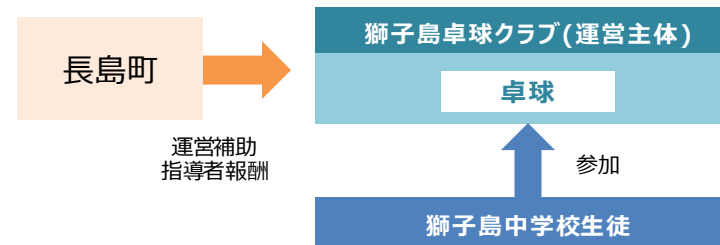
2.実証内容と成果

主な取組例

●獅子島卓球クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球
運営団体名	獅子島卓球クラブ
期間と日数	4月1日～3月31日 平日4日/週 土日1日/週
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	獅子島小中学校
主な移動手段	スクールバス、保護者
1人あたりの参加会費等（年額）	21,600円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●指導者 2名

役割：学校、保護者との連携を行う。

生徒への指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

スポーツ協会やスポーツ推進委員に指導者の紹介や推薦、人材バンクへの登録等の協力を依頼した。

また、スポーツ少年団指導者や小中学校全保護者に向け、人材バンクへの登録を依頼するアンケートを実施した。

人材バンクの人数

7名

人材バンクの年齢構成

30代 2名

40代 3名

50代 1名

60代 1名

種目

- ・ バレーボール
- ・ 陸上競技
- ・ 卓球
- ・ 剣道

資格有無

剣道の段など、競技の資格を持っている人がいる。また、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録証を有している方もいる。

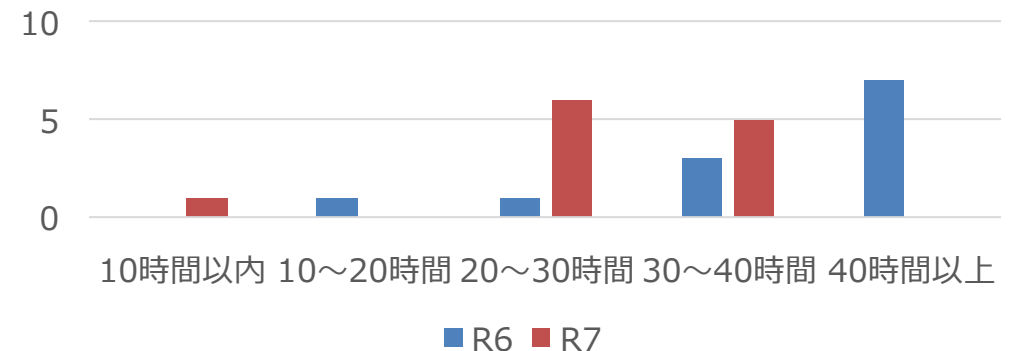
取組の成果

令和6年度に実証事業を行った学校の平均残業時間の月数を示したグラフである。令和5年度と比較し、残業時間が大幅に削減した。平均残業時間が40時間を超える月が令和6年度には0になっている。様々な業務改善の結果であると考え、教職員へのアンケートで、「部活動の地域移行・地域連携の効果を実感しているか」との問いに80%の職員が「実感している」と答えた。

本事業は児童生徒や教職員、地域にとって様々な効果があると考え、特に業務改善という点で効果を感じることができた。本町内の更に多くの学校で本事業に取り組み、業務改善を進めていきたい。

該当残業時間の月数

平均残業時間



出典:長島町教育委員会

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- 1 長島町立学校における部活動の在り方に関する方針の説明
 - (1) 本方針が目指すものについて
 - (2) 合理的でかつ効率的・効果的な活動推進のための取組について
 - (3) 適切な活動時間並びに休養日の設定について
- 2 補助要件について
- 3 提出物について

受講者の声

受講者の方々はこれまでも児童生徒の指導を行ってきている方々である。長島町立学校における部活動の在り方に関する方針の説明で、「今は難しいですよね」という言葉も出たりするなど、中学生に指導をするにあたり、行わなければならないことや、求められていることを改めて知ることができた様子であった。

補助要件や提出物に関しては、質問が多く出た。丁寧に説明を行ったが、今後も気軽に連絡をするように伝えた。

今後の課題と対応方針

今後の大きな課題は指導者の数である。本町には運動部・文化部を合わ17の部活動がある。今後取組を更に進めていきたいが、指導者の数が足りていない状況がある。指導者の掘り起こしを進めていく必要がある。

そのために、スポーツ協会などと更に連携を深めていきたい。

また、本事業への地域の方々の理解を深めていく必要もある。令和6年度は推進協議会を1度しか開催できなかったが、回数を増やして、情報を発信する場を多く設けていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 部活動の地域移行を推進するに当たり、持続可能な取組を推進する観点から、指導者の確保に向けた取組等を実施し、課題の抽出や課題解決策の検討を行った。
- 具体的には、スポーツ協会 に所属する各種団体や、小中学校保護者へのアンケートを実施し、指導できる競技、日数、場所等を調査し、指導者登録リストを作成した。

取組の成果

- 運営協議会において、指導者に関する課題の抽出と解決の方法の検討を行った結果、スポーツ協会に所属する各種団体、スポーツ少年団だけでなく、小中学生の保護者まで広げアンケートを行った。
- アンケートは、回答しやすいよう、紙媒体及び二次元コードから入力できるようにした。
- アンケートは保護者対象 7 9 9 部、スポーツ協会及び文化協会所属団体対象 4 9 部、スポーツ少年団 8 部を配布し、2 月末時点で 3 件の回答が得られた。
- 得られた回答をもとに、指導者登録リストを作成し、今後の地域クラブの活動内容と指導者を選定する材料とした。

番号	氏名	連絡先	指導可能種目	指導可能日	大会引率	指導場所	登録日	備考
1			陸上・中長距離	要調整	休日可	鷹巣中	R7.1.19	
2			剣道	要調整	不可	どこでも	R7.2.6	防具が課題
3			バレーボール	平日・日曜	休日可	獅子中	R7.2.11	
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								

出典:長島町教育委員会

今後の課題と対応方針

- 年度当初の登録者目標を 5 名としていたが、実際には 3 人にとどまるなど、回答率が低かった。
- 今後は、パンフレット等を作成し、地域移行の考えをさらに周知し、指導者の確保に努める。また、教員の兼職兼業について検討を進める。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年4月から始まった本町の地域移行は、「できること、できるところから一歩ずつ。」取組を進め、今年度は、獅子島地区にあった小学生対象の地域クラブを中学校にまで拡張して運営を進めてきた。

活動内容については、参加者の満足度は高く、充実したものになっていたが、部活動(地域クラブを含む)の加入率と指導者の登録リストの結果が目標値に届かなかった。これは、生徒、保護者、地域への周知と理解を深めるための取組が課題であり、今後は、町全体に部活動地域移行の理念がより周知されるよう工夫改善をしたい。

また、部活動地域移行推進協議会でも、今後の持続的な活動のために、財政部局との連携の重要性について指摘があった。様々な方面から財政的な支援ができるよう、今後も首長部局と連携を密に図っていきたい。

次年度は、地域クラブが2団体増えるため、より綿密な連携と連絡調整が必要になる。定期的なヒアリング等を行い、運営の充実を図りたい。

●成果の評価

令和6年度の本町における本事業の目標と結果は以下のとおりであった。

項目	対象中学校生徒の部活動・地域クラブ加入率	地域クラブの活動満足度	指導者登録リスト
目標	85%	80%	5人
結果	70%	90%	3人

- 対象中学校生徒の部活動加入率は昨年度に比べ増加したが、新たに活動を始めた地域クラブへの加入が1名にとどまった。今後、新入生等への周知を行いたい。
- 活動に取り組んだ生徒の満足度は高く、活動内容は充実していたと考えられる。
- リストの登録者は3人で、登録率は、0.03%であった。

●今後に向けて

- 令和7年からは新たに2団体、併せて3団体の活動を推進することになる。既存の部活動から移行する地域クラブは1団体であり、今後は、地域クラブへの周知を含めた説明を生徒、地域、保護者に分かりやすく伝えられるよう、改善する。
- それぞれの地域クラブのよさを生かした取組の充実が図れるよう、定期的なヒアリングを行うとともに、財政部局と連携しながら、よりよい体制の構築を検討する。
- 指導者の確保のために、地域住民への理解を促進するために、継続した説明と、登録募集の案内を行う。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・活動写真・参加者の声

●アンケート結果

Q今年の地域クラブ活動でうれしかったことや心に残っていることはなんですか。

県の大会で優勝することができたり、結果を残すことができたことがよかった。



【中学生の練習】

Q来年度に向けてこうなったらいいと思うことはありますか。

練習時間の上限を増やしてほしい。



【小学生と合同の練習】

●参加者の声

中学1年生

県の大会で優勝できたことが心に残っている。これから小中学生全員が一回一回の練習に集中できるクラブにしていきたい。

指導者

子供の成長をものすごく感じた一年だった。他のチームとの交流など、卓球を通した人間形成を図るきっかけが中学校でも地域クラブとして継続できたことが成果だと思う。

指導者

今後は、試合等の成果はもとより、スポーツを通した挨拶等の人間形成やチーム作りをしていきたい。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

- 地域クラブを実施するにあたり、既存の部活動との相違点について周知を図るために説明会を開催した。学校のPTA行事の終わりに時間を設定してもらい、中学校の全保護者に周知した。

- 指導者の登録リスト作成のためのアンケートを実施した。小中学校の保護者へは学校から配布を依頼、その他各種団体には郵送した。紙媒体での調査に加え、二次元コードでの調査も併用した。

【資料1】 獅子島中学校 部活動の地域移行に関する説明会資料

長島町教育委員会学校教育課

【本日説明する概要】

獅子島中学校の生徒が卓球クラブとソフトテニス部の2団体から所属を選択することができるようになります。

1. 獅子島卓球クラブを国が示す中学校部活動の地域クラブ活動への移行団体として環境を整備します。
2. 獅子島ソフトテニス部は、監督（指導者）を派遣し、継続して実施します。
3. 地域クラブについても部活動と同様、総体、新人戦等の補助を行います。
4. 卓球クラブでは活動中保護の保護者負担があります。
5. ソフトテニス部、卓球クラブとも実費等保護者負担があります。

1 部活動地域移行の目的

- (1) 少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して取り組むことができる機会を確保するための取組です。
- (2) 学校・保護者・地域が一体となって取り組むことで生徒の健全育成をより推進するための取組です。

獅子島における部活動地域移行のイメージ

【保護者への説明資料】

出典:長島町教育委員会「保護者説明会資料」

部活動等の指導ができる方へアンケート

現時点でのことでお答えください。中学校部活動等の指導ができない場合は回答の必要はありません。

このアンケートで指導ができるとお答えになっても、すぐに指導員を依頼するものではありません。

1. 部活動等の指導ができる方、指導してみたいと考えている方のお名前、連絡先（電話番号）をご記入ください。

お名前 ()

連絡先 ()
2. 指導できる種目にチェックを入れてください。（複数選択可）

() バレーボール () 野球 () サッカー () 卓球 () ソフトテニス

() 柔道 () 剣道 () 相撲 () 吹奏楽 () 美術

() 英語 () ダンス () 茶道

() その他（ご記入ください）:
3. どの程度指導ができますか。指導ができる曜日すべてに○をつけてください。

* 平日は夕方2時間程度（平日は週1回以上の休業日が必要です。）

* 土日は日中3時間程度（土日は週1回以上の休業日が必要です。）

() 月曜日 () 火曜日 () 水曜日 () 木曜日 () 金曜日

() 土曜日 () 日曜日
4. 原則終日の引率となりますが、大会等の引率は可能ですか。

() 平日可能 () 休日可能 () どちらも不可能
5. どの学校での指導が可能ですか。指導できる学校すべてに○をつけてください。

() 鷹巣中 () 川床中 () 獅子島中 () 長島中 () 平尾中
6. 本アンケートまたは、部活動の地域移行に関してご意見がありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございます。2月末までに学校教育課へFAX ()、電話連絡 () いただくか、直接お持ちください。また、下の二次元コードでは、随時回答のご協力をお願いしております。

【指導者登録調査】

出典:長島町教育委員会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、
検討開始

地域クラブ選定

学校現場との
調整

令和6年

児童生徒へのア
ンケート実施

保護者への説明

地域クラブ活動
の開始

●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、各種競技団体、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、町長部局、町教委

●経過

令和5年度より協議会を設置し、持続可能な部活動の体制づくりや、教職員が生徒と向き合う時間の確保の両方を実現するために、中学校部活動の地域移行の検討を始めた。本町では、受け皿となる総合型地域スポーツクラブがなかったため、個別の種目で活動しているクラブから取組をはじめ、町内全体に徐々に活動を広げていくこととなった。

地域移行実施に当たって、本町における学校部活動の地域連携や地域クラブ活動の在り方に関する指針の策定を進め、地域クラブの選定を行った。

●実施内容

令和6年4月から、本町では1クラブにおいて地域クラブ活動を開始した。開始したクラブは、卓球競技を行うクラブである。地域在住の2人の指導者が指導にあたっている。「長島町立学校における部活動の在り方に関する方針」に則り、平日・週休日にそれぞれ1日ずつ休養日を設けた。

●実施にあたって生じた課題

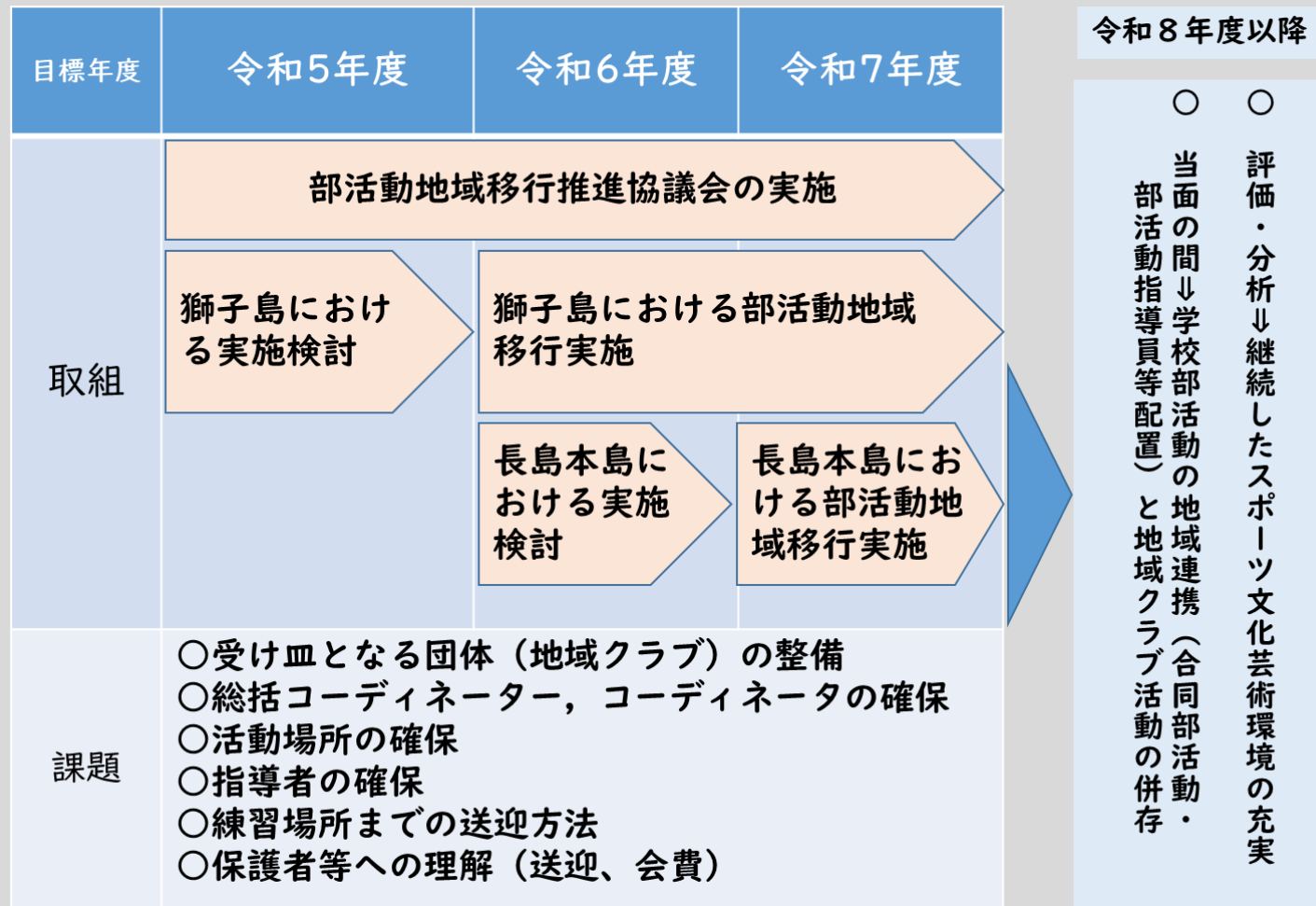
令和6年度から地域クラブとして活動を開始するクラブは、離島であり、さらに新規のクラブであったため、中学生の参加者が1名となった。今後は、生徒への案内強化など検討している。また、町内の指導者不足と、運営資金が課題として協議会内で指摘された。持続可能な取組とするために、地域住民への働きかけと財政部局との連携を進めている。

●今後の展開

令和7年4月からは、地域クラブを3団体に増やし活動を実施する。指導者の実態に応じて、平日1日、休日1日の週2回から、平日4日、休日1日の週5回まで実施の形態を柔軟に設定した。今後は、指導者候補のアンケートをもとに、人材バンクを作成し、生徒が多様な活動に自由に取り組めるような体制づくりを進めていく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



出典:長島町教育委員会「長島町部活動地域移行推進協議会資料」

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

鹿児島県 知名町

自治体名：鹿児島県知名町

担当課名：教育委員会事務局

電話番号：0997-84-3158

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	53.3 km ²
人口	5,380 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	146 人
部活動数	8 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当町の運動部活動は、男子軟式野球部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール、女子ソフトテニス部、男子サッカー部、男子バレーボール部、女子バレーボール部が活動している。

少子化に伴い、従来から男子軟式野球部は他の中学校と合同チームによる活動をしている。

昨今の出生者数を見ると団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。

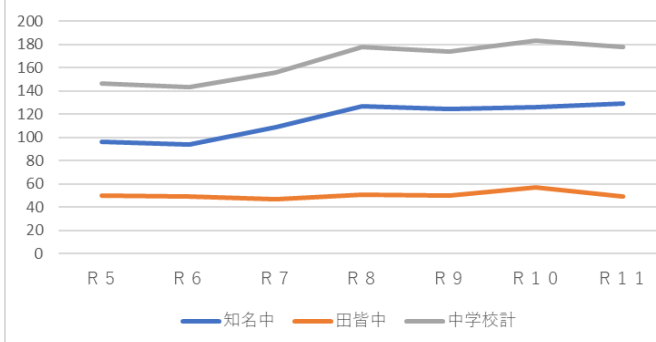
改革推進期間である3年間で、成績や勝敗にこだわらず種目にとらわれない「身体づくり」を主体とした活動を第一に進め、同時に教職員の働

き方改革の推進を、目標とし地域移行を進める。

また、長年にわたって部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いている。今後、地域移行に当たり部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要であり、同時に地域移行推進にあたって学校の教職員以外の地域内の指導者の掘り起こし、確保も同時に進めていかなければならない。

本町の実態に合った、継続できる仕組みの構築に向けて取り組んでいく。

中学生数の推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・運動部活動の地域連携や地域スポーツクラブ活動への移行に向けた環境の一体的な整備に向け、地域スポーツの推進体制等の下で、コーディネーターの配置を含む運営団体・実施主体等の体制整備、指導者の確保、参加費用負担への支援等に関する実証事業を実施する。

◎E LOVE

① 総括コーディネーターの配置② 部活動指導員地域移行事務局③ 部活動指導員コーディネーター④ 保険加入事務等、地域移行に資する業務

年間の事業スケジュール

令和6年5月

令和6年度第1回知名町地域部活動推進協議会

- ・ 地域の指導者掘り起し
- ・ 実態の把握
- ・ 休日・平日の地域スポーツクラブ化の検討
- ・ 持続可能な資金計画検討

令和6年10月

令和6年度第2回知名町地域部活動推進協議会

- ・ アンケートの結果
- ・ 今後の予定
(2月までに1チームの地域移行)

令和7年2月

令和6年度第3回知名町地域部活動推進協議会

- ・ 各団体協議結果
- ・ 今後の方向
(地域連携で推進していく)

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	0 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ（0 部活）
	B：部活動にはない種目など、新規のクラブ数		0 クラブ
全体の指導者数	0 人	全体の運営スタッフ数	0 人

②各クラブに関すること

中学校名	クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
	該当なし										

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体・市区町村との連絡調整・指導助言等を行う。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

○統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○各競技団体との連携を図り、地域移行の可能性を探ることができた。

○保護者向けアンケートを実施し、本町における地域移行の課題を把握することができた。

【地域移行の課題】

○町や学校が違くと遠征時の自己負担の金額が違うので、まとめるのが大変。部費もそれぞれなので必要なものを購入するときにどこから出せばいいのか悩んだりもある。人数が増えると大会に出れない子もいる。

○練習場所をどうするか？指導者はいるのか？

○保護者同士の連携の難しさ。

○保護者の送迎が必要。

○部の運営がこれまでと同じようにできない。（経費含）

○自分の学校の先生やコーチに、試合の時に一緒にいてもらえない。

○指導者同士の指導観が合わないことがあるかも？

【保護者へのアンケートより】

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・各競技団体と、地域移行に向けて協議を行い、課題を明確にした。

今後の課題と対応方針

- ・現段階では、本町は、地域移行ではなく地域連携が適していることが分かった。地域移行に向けた取組は一度休止し、地域連携を充実させていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・競技連盟の推薦による指導者の確保
・E L O V Eによる研修
・持続可能なクラブ活動体制にするために、地域の指導員の割合を増やしていく必要があるので、競技連盟に働きかける。

人材バンクの人数

該当なし

人材バンクの年齢構成

該当なし

種目

該当なし

資格有無

該当なし

取組の成果

地域スポーツクラブとしての運用ができなかったため、取り組むことができなかった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

ELOVEによる研修を計画した。しかし、地域スポーツクラブとしての運用ができず、指導員としての研修を行うことはできなかった。

受講者の声

該当なし

今後の課題と対応方針

地域連携でも指導者の質の保証・量の確保が必要になるので、顧問や競技団体と協力して進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

国や県の補助がなくなった場合の運営費等をどのように負担していくか、保護者や地域と検討する。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

大会参加費
(旅費・宿泊費・日当)

■ランニングコストの分析

用具の修理・購入費
(部によって異なる)

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

指導者への報償 1200円×2時間×5日×4週×12か月 = 約60万円
(受益者負担額)

指導者への報償の負担分 $600000円 \times \frac{2}{3} = 400000円$

指導者旅費(大会) $50000円 \times 4回 \times 2人 = 400000円$

大会エントリー料・用具補充 100000円

90万円を部員数で割った額が一人当たりの負担額となる。

それに加えて

生徒旅費(大会) $50000円 \times 4回 \times 1人 = 200000円$

が必要となる。

収支バランス



指導者の報償の1/3は町よりの補助を想定

指導者の報償の2/3とその他の経費が保護者負担となる。

(10人の部)

$(90万円 \div 10人) \div 12月 = 7500円$

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

国や県の補助がなくなった場合の運営費等をどのように負担していくか、保護者や地域と検討した。

(一人当たりの経費)
7500円／月(10人の部で試算)
→ これまでは2000円程度

指導者への報償

1200円×2時間×5日×4週×12か月＝約60万円

(受益者負担額)

指導者への報償の負担分

600000円×2／3＝400000円

指導者旅費(大会) 50000円×4回×2人＝400000円

大会エントリー料・用具補充 100000円

90万円を部員数で割った額が一人当たりの負担額となる。それに加えて

生徒旅費(大会) 50000円×4回×1人＝200000円
が必要となる。

今後の課題と対応方針

一人当たり7500円／月の負担は難しいという意見が多かった。
当面は地域連携で「部活動」という形で活動を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

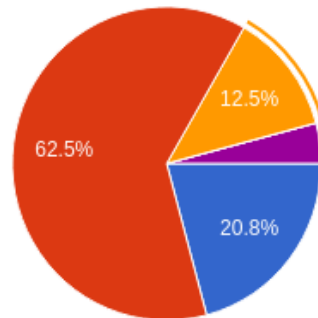


取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

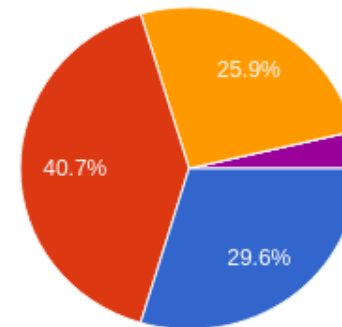
資料

Q現在負担している額（月額）



● 0～1000円(月)
● 1001～2000円(月)
● 2001～3000円(月)
● 3001～4000円(月)
● 4001円以上(月)

Q負担できる額（月額）



● 0～1000円(月)
● 1001～2000円(月)
● 2001～3000円(月)
● 3001～4000円(月)
● 4001円以上(月)

必要な額

7500円／月

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和4年度より知名町地域部活動推進協議会検討委員会を設置し、地域クラブ体制を令和8年までに構築する推進計画及び活動指針を策定した。令和5年度からは、学校や保護者への説明を行うとともに、本町に合った、持続可能な部活動の在り方について協議を行ってきた。

実施内容

令和6年度当初は2月に全部活動の休日のみ地域移行を目指した。競技団体とも協議を行い、地域移行の可否を確認した。9月からは指導者が確保できており、地域移行に前向きになっていた田皆中学校バレー部に絞って、地域移行に取り組んだ。

●成果の評価

地域スポーツクラブ化への課題は以下のとおりである。

- ・ 平日と休日を分けることの難しさ
(試合が休日にある・試合の遠征費との兼ね合い・会計を分けることの難しさ)
- ・ 他町との調整
(本当は2町からなっており、調整が難しかった)
- ・ 指導者確保の難しさ
(競技団体へも呼び掛けたが、指導できる人材がなかなか集まらない)
- ・ 競技種目による、クラブチームの参加ができないことへの不安

これらの課題が明確になったことは、次に地域移行を考えるときに有意義であると考えている。

●今後に向けて

上記の理由から、現段階では、本町に地域移行はそぐわないとの結論が出た。今後は今以上に指導者の確保を図り、地域連携を充実させていく。

(具体策)

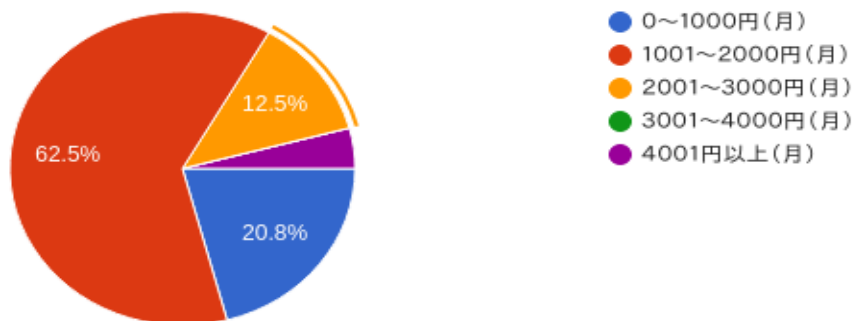
- ・ 各種競技団体との連携
- ・ 隣町との連携と調整
- ・ 他の自治体の情報収集

2.実証内容と成果②

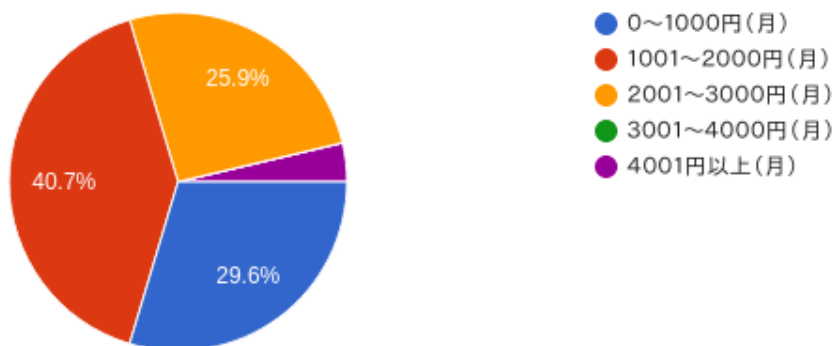
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q現在負担している額（月額）



Q負担できる額（月額）



地域移行に向けたアンケートより

保護者

島内に2町あるので、両町で足並みをそろえる必要がある。

保護者

習い事と同じと考えれば、5千円くらいまでは普通に出せる。ただ、これまでもが少ないので、全員はそうは考えられないと思う。

保護者

大会等の負担金、旅費もあるので、それを考えると月2000円が限度

指導者（など）

合同になる学校によって指導者が変わり、指導が一貫しなくて、選手の成長の妨げになっている。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【バレーボール部】



【バスケットボール部】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、競技団体
市教委、総括コーディネーター

経過

令和4年度より知名町地域部活動推進協議会検討委員会を設置し、地域クラブ体制を令和8年までに構築する推進計画及び活動指針を策定した。令和5年度からは、学校や保護者への説明を行うとともに、本町に合った、持続可能な部活動の在り方について協議を行ってきた。

実施内容

令和6年度当初は2月に全部活動の休日のみ地域移行を目指した。競技団体とも協議を行い、地域移行の可否を確認した。9月からは指導者が確保できており、地域移行に前向きになっていた田皆中学校バレー部に絞って、地域移行に取り組んだ。

実施にあたって生じた課題

平日と休日を分けることの難しさ。

（試合が休日にある・試合の遠征費との兼ね合い・会計を分けることの難しさ）

他町との調整

（本当は2町からなっており、調整が難しかった）

指導者確保の難しさ

競技種目による、クラブチームの参加ができないことへの不安

今後の展開

令和7年からは、地域連携を推進していく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

実際

R5	R6	R7	R8～
平日・休日ともに学校部活動 【地域連携】 【地域移行を模索】		平日・休日ともに学校部活動 【地域連携】	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

鹿児島県 与論町

自治体名： 鹿児島県大島郡与論町
担当課名： 与論町教育委員会事務局学務課
電話番号： 0997-97-2441

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	20.58 km ²
人口	5,053 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	162 人
部活動数	9 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

与論町は、鹿児島県最南端に位置する人口5,000人ほどの離島であり、町内唯一の中学校である与論町立与論中学校には7つの運動部活動がある。部活動に係る教師の負担軽減の視点はもちろん、離島という地理的環境による様々な制約を解決したり、顧問の教諭が3～5年で異動することによる生徒の不安等を解消したりするという視点からも、部活動を地域ぐるみで支えていくための仕組み作りが求められている。

その与論中学校では、部活動の顧問等において担当競技経験者が少なく、専門的な指導ができていない状況にある。また、これまでに実施した意識調

査では、ほぼ全ての教師が「休日の部活動の段階的な地域移行」について積極的な推進を求めている。

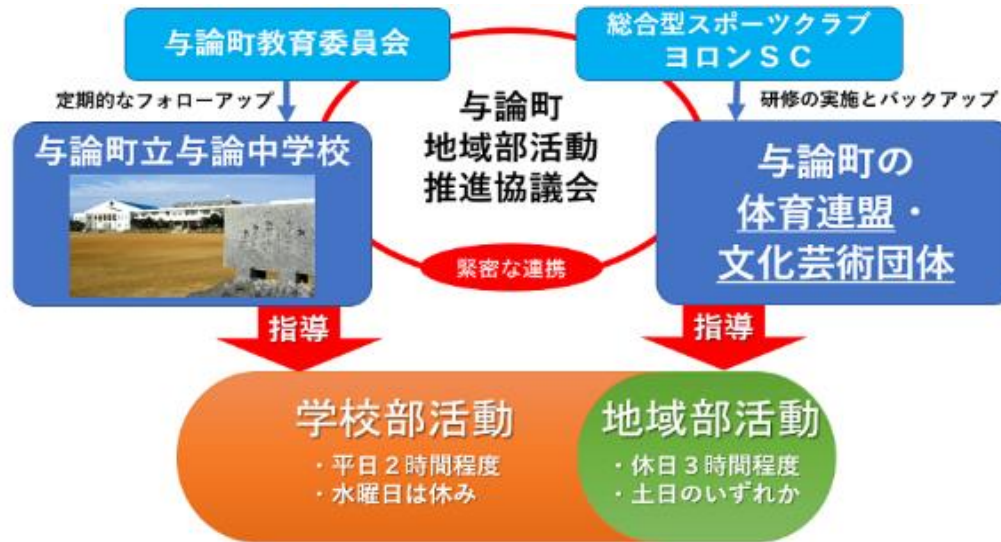
与論町では令和2年度末に与論町地域部活動推進協議会を設置し、令和3年度以降、与論中学校の運動・文化部活動を段階的に地域に移行している。そのことにより、令和3年度以降のフォローアップ調査では、同校の部活動に係る勤務条件の改善について「十分に効果が表れている」と回答した教員は増加傾向にある。しかし、部活動指導に費やす時間の長さが、同校における教員の超過勤務の要因の一つとなっていることから、本町においては、部活動改革を一層具体的に推進する必要がある。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・ 与論町地域部活動推進協議会の運営
- ・ 地域指導員の活動の把握

◎総務企画課

- ・ 地域部活動に係る予算編成と執行

年間の事業スケジュール

令和 6 年 4 月	第 1 回与論町地域部活動推進協議会の開催，拠点校における実施準備 部活動指導員の継続任用及び教師の兼職兼業許可申請
令和 6 年 5 月	部活動の地域移行の充実
令和 6 年 7 月	第 2 回与論町地域部活動推進協議会の開催
令和 6 年 9 月	女子バレー部地域移行開始
令和 6 年 11 月	第 3 回与論町地域部活動推進協議会の開催
令和 7 年 1 月	生徒・保護者のアンケート調査
令和 7 年 2 月	第 4 回与論町地域部活動推進協議会の開催 事業完了報告・成果報告



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（4 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	13 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
サッカー部	与論町地域部活動	サッカー	月 4 回程	8 時～11 時	1年7人 2年14人 3年10人	4～2月	与論中学校校庭	3 人	1 人 (内、兼務 1 人)	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
卓球部	与論町地域部活動	卓球	月 4 回程	9 時～12 時	1年11人 2年 6 人 3年 8 人	4～2月	与論中学校体育館	4 人	1 人 (内、兼務 1 人)	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
野球部	与論町地域部活動	野球	月 4 回程	8 時～11 時	1年3人 2年1人 3年4人	4～2月	与論中学校校庭	4 人	1 人 (内、兼務 1 人)	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
女子バレー部	与論町地域部活動	バレー	月 4 回程	8 時～11 時	1年8人 2年5人 3年9人	4～2月	与論中学校体育館	2 人	1 人 (内、兼務 1 人)	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

主な取組例

●クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、卓球、野球、バレー
運営団体名	与論町地域スポーツクラブ
期間と日数	サッカー：4月5日～2月28日 月4回程度 卓球：4月5日～2月28日 月4回程度 野球：4月5日～2月28日 月4回程度 バレー：9月1日～2月28日 月4回程度
指導者の主な属性	町体育連盟所属の町民，兼職許可を受けた教員
活動場所	与論中学校，ゆいLAND人工芝サッカー場 ほか
主な移動手段	徒歩又は自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	徴収なし ※ 学校部活動の部費，実証事業費，町費で負担
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- コーディネーター（運営スタッフ） 1名
役割：部活動指導員の業務の把握・謝金申請等を行う
- 地域指導者 13名

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

令和5年度に引き続き、与論町地域部活動推進協議会事務局が、関係者との連絡調整・指導助言等を担う。また、同事務局の所掌事務を段階的に「総合型スポーツクラブ『ヨロンSC』」に移行する。

取組の成果

昨年度指導実績のあったサッカー、卓球に加え、野球の3種目について指導者を確保し、4月からスタートできた。年度途中から、休日の女子バレー部の活動を地域クラブ活動に移行した。

スポーツクラブ活動状況

	R3	R4	R5	R6
サッカー部	8月～	○	○	○
卓球部		6月～	○	○
剣道部		6月～	○	廃部
野球部			11月～	○
女子バレー部				9月～

コーディネーターの具体的な動きの実績

与論町が進めている地域部活動のねらいや、地域指導者としての各種手続き等をまとめて理解することができるよう、「与論町地域部活動マニュアル」を使用し、関係者と共有しながら適宜内容を更新している。

今後の課題と対応方針

ヨロンSCへの所掌事務の移行については、SC側において人材・費用の両面に課題があったため、進まなかった。ヨロンSCとは地域移行についてのビジョンを共有することはできているので、引き続き協議・連携をしていきたい。また、地域移展開できていない部活動についても整備を進めたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

総合型スポーツクラブ「ヨロンSC」の協力のもと、サッカー連盟、卓球連盟、野球連盟等から経験豊かな指導者が派遣されるようにする。また、新たに地域指導者を任用する際は、町教育委員会による任用時研修を行う。

人材バンクの人数

6名

人材バンクの年齢構成

20代	1名
30代	2名
40代	2名
60代以上	1名

登録者属性

ヨロンSCや各競技連盟、中学校からの推薦・派遣による

種目

サッカー、卓球、野球、バレー

資格有無

野球指導者1名資格有り
その他の指導者については資格は無いが、競技経験あり。

取組の成果

ヨロンSCと連携し、全ての地域スポーツクラブ活動に、競技・指導経験が豊かな指導者を派遣することができた（計6人）。特に、サッカー部、卓球部、野球部については、顧問等兼職許可教員ではない地域指導者の引率によって島外の大会に参加することができた。

地域指導者による島外遠征等の引率実績

	サッカー	卓球	野球	女子バレー
島外遠征引率	4	2	17	1
上記の内兼職の顧問を除いた実績	1	1	17	0

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- 部活動の指導にあたって（指導者としての心構え等）
- アンガーマネジメント



指導者研修の参加実績

- ・開催日： 4月 18日, 7月5日, 10月11日
- ・開催回数： 3 回
- ・参加人数： 6 人

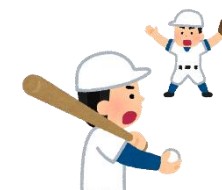


受講者の声

- 現在の部活動の指導のあり方について確認できた。生徒を指導にする際に気をつけていきたい。
- 昔のように根性論での指導ではなく、楽しみながら活動することを重視していることを知った。
- 競技の指導をしていると、つい熱くなってしまうところがあるので、気をつけていきたい。
- 学校と連携しながら進めたい。

今後の課題と対応方針

- ・指導者の参加が難しい日もあったので、実施のあり方を検討したい。
- ・研修内容が例年似ているので、よりよい内容を検討していきたい。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

これまで与論町地域部活動推進協議会が所掌してきた事務を「総合型スポーツクラブ『ヨロンSC』」に段階的に移行できるよう、ヨロンSCの受け入れ体制の支援を行う。

地域部活動推進協議会等で与論町に合った部活動の地域展開について協議し、イメージを共有する。

取組の成果

ヨロンSCへの所掌事務の移行については、SC側において人材に課題があったため、進まなかった。そのことを受け、代替策として、関係団体との連携強化を担う「地域部活動総括コーディネーター」の任用を試みたが、適当な人材を確保することができなかった。

地域部活動推進協議会では、今後の推進・展開について協議を重ね、そのイメージを共有することができた。



今後の課題と対応方針

関係団体との連携を強化するためには、地域部活動のねらいや具体的取組について正しく理解した事務局職員が複数いることが望ましい。現在、事務局職員は1名だが、令和7年度は、ヨロンSC又は関係機関から、事務局職員を追加したい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項（エ）

指導員に負担のないよう学校・地域指導者間の連携を強化する。現在地域部活動に移行していない運動部（弓道、男子テニス部）については、状況に応じて地域移行を検討する。



取組の成果（エ）

地域部活動推進協議会を年4回設定し、学校・地域指導員・ヨロンSCとの連絡・協議を進めた。地域移行していない部活動についても、ヨロンSCや中学校の意見を聞きながら今後の在り方について議論することができた。



今後の課題と対応方針（エ）

面的・広域的な取組を充実させるためにも、事務局職員の増員や、総括コーディネーターの任用が必須だと考える。次年度中に適当な人材を任用できるように、ヨロンSCと連携しながら情報収集に当たりたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

与論町地域部活動推進協議会を年に4回開催し、課題を適時解決する。また、令和6年度から総括コーディネーターを配置し、学校と地域の連携を一層充実させる。

推進協議会の会議を学期1回以上開き、学校と地域の語り合いによって、その時々課題を解決することができた。総括コーディネーターについては、任用に至らなかった（「ウ」参照）。

活動の詳細			
参加人数	20人	指導者数	16人
属性	与論町地域部活動推進協議会		
具体的な内容	定期的開催し、各部活動での指導について成果と課題を出し合い協議する。また、併せて部活動指導員の研修会を開催し、研究と修養に努める。		
子供の声	- 練習日や時間について増やしてほしい。 - 地域の指導員のおかげで専門的な技術習得ができています。		
関係者の声	- 定期的に成果と課題について協議できるのでありがたい。 - 研修してみて、改めて生徒の指導の在り方について考えさせられた。		
運営経費	協議会での経費は計上していない。		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

同時に進行している「地域スポーツクラブ体制整備事業」や「部活動指導員の活用」との関連性をもたせながら、事業の効果を高める。

取組の成果

平日・休日の区別や、運動部・文化部の区別なく、地域ぐるみで中学校のスポーツ・文化活動に関わる風土が作られつつある。

サッカー部では平日の夜間指導も始まり、指導員の本業の従事を踏まえた取り組みになりつつある。



指導者の属性や配置の工夫

- ・指導者の属性
平日：部活動指導員
休日：地域の指導員（兼職許可のある顧問等を含む）

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

- ・平日の顧問の指導で週末の練習を計画し、地域の指導員に引き継いだり、また逆に地域指導員と生徒で練習計画を立てて、顧問が平日等に指導にあたった。

今後の課題と対応方針

地域指導者が大会引率する際、地元企業の理解が必要であり、今後更に地域に向けて地域部活動についての周知が必要である。

複数の実証事業を同時に進行しているため、推進協議会事務局職員の負担が大きい。事務局職員の増員が喫緊の課題である。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

与論中学校の平日の学校部活動である「吹奏楽部」と接続する形で、「休日の吹奏楽団」としての地域クラブ活動を設置し、町教育委員会が任用した地域指導者のうち、教員以外の指導者には、部活動指導員として平日の学校部活動での指導にも関わらせた。ただし、学校部活動と地域クラブ活動に参加する生徒は同一であるため、平日・休日間の指導の接続を円滑にし、生徒や保護者の混乱を生じさせないよう、平日・休日どちらの活動についても、練習計画や指導方針は、吹奏楽部の顧問教諭（休日は地域指導者の一人）がイニシアチブをもって決めることを基本とした。このように、与論町立与論中学校の教員、生徒、保護者、地域の理解を得ながら「休日の部活動の地域移行」を適切に推進し、吹奏楽部の指導に係る教員の負担軽減を図った。

あわせて、休日の地域クラブ活動において教員以外の地域指導者を一層積極的に活用することにより、楽器演奏経験者による専門的な指導や、音楽家が有するステージ作りのノウハウ等を生徒の活動に取り入れるようにした。

以上の取組を通して、「生徒にとって質が高く、地域において持続可能な音楽環境」の構築を目指した。

●成果の評価

- ・令和7年2月末時点における教員以外の地域指導者の指導実績は、平日は総計114時間、休日は総計471.5時間であり、顧問教諭が部活動の指導に従事する時間が一定量削減されており、顧問教諭の負担軽減につながった。
- ・島外遠征についても教員以外の地域指導者が引率し、顧問教諭の負担軽減と地域への貢献に努めることができた。
- ・令和7年度1月から、サッカー部において地域の指導員による夜間指導が平日に週1回のペースで始まり、段階的に地域移行がなされている。

●今後に向けて

今後も地域指導者の積極的・計画的な活用を進めるとともに、吹奏楽部の地域移行のねらいや現状を町民に周知したり、地域クラブ活動だからこそできる魅力的なステージ等を引き続き模索したりしながら、地域移行の取組を一層充実させたい。

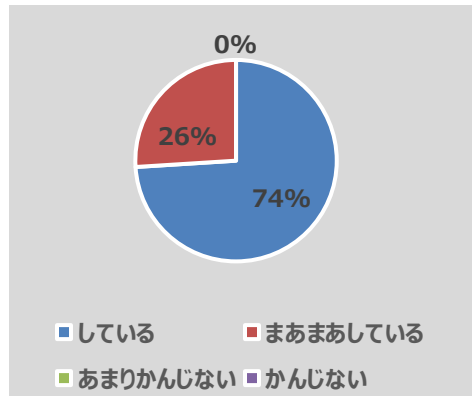
それらによって、「生徒にとって質が高く、地域において持続可能な音楽環境」の構築を更に進めていきたい。

2.実証内容と成果②

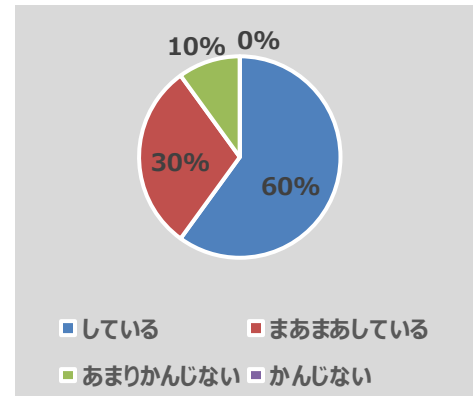
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（運動部・文化部）

Q.生徒は地域の指導員による専門的な指導の実現を実感しているか。



Q.顧問教諭等は地域の指導員の活用による負担軽減を実感しているか。



●活動写真



【女子バレー大会表彰】



【野球部試合の様子】

●参加者の声

中学1年生

上手くできていないところを指導するだけでなく、いいところも褒めてもらえてうれしいです。与論でも専門的な指導をしてもらえて感謝しています。

中学2年生

地元の先輩が指導してくれるので、親しみをもって話ができます。顧問がいないときでも本格的に練習ができるので有り難いです。

指導者

与論にあった形で進められていると思います。子供たちのために、これからも指導していきたいです。また、先生方の負担軽減にも役に立ててうれしいです。

保護者

学校だけでなく地域からも指導してもらえてありがたいです。たくさんの方の協力があるこそだと思っています。これからも続けてほしいです。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和2年度末

- 町教育委員会による、地域移行に係る中学校教員への意識調査の実施と、ヨロンSCへの協力依頼
- 与論町地域部活動推進協議会の設置に係る諸規則等の策定

令和3年度

- 兼職兼業許可の仕組みづくりと部活動ガイドラインの改定
- 与論町地域部活動推進協議会の設置
- 8月にサッカー部と吹奏楽部の休日の活動を地域に移行

令和4年度

- 6月に、卓球部と剣道部の休日の活動を地域に移行
- 地域指導者の募集（SNSを活用）

令和5年度

令和6年度

- 地域部活動マニュアルの改定
- 令和5年11月に、野球部、令和6年9月に、女子バレー部の休日の活動を地域に移行

地域部活動推進協議会が設置されてから、地域クラブ活動実施に至る合意形成は、推進協議会事務局と、中学校、指導者の3者間での直接のやりとりによって行われています。

★与論中のサッカー部の地域移行★



←顧問の先生



←地域指導員 N さん

① 外部指導者への打診

令和3年度部活動指導員として関わってくださったNさんが、学校との語り合いにより地域移行に賛同。

② 地域移行の準備期間

Nさんは、部活動指導員として、顧問と連携して平日の指導を行う。

③ 校長による地域移行判断

Nさんによる部活動指導が軌道に乗り、校長から8月からサッカー部の休日の地域移行の申し出があった。

④ 保険加入手続き

③を受け、部活動推進協議会事務局は、休日が学校管理下外になるサッカー部について、学校から提供された名簿により、所属生徒、顧問及びNさんの「スポーツ保険」加入の手続きを行う。

⑤ 「休日の部活動」の地域移行と顧問の兼職許可

8月から、サッカー部の休日の活動は、学校部活動ではなく、地域のクラブ活動（地域部活動）となる。部活指導員であるNさんは、地域の指導者として別途報酬を受けながら休日の指導を行う。

必要に応じて休日でも顧問が指導できるよう、顧問の先生の兼職許可を申請してもらい、顧問が休日は地域の指導者として指導できるようにする。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和3年度

- 兼職兼業許可の仕組みを検討したとともに、「与論町部活動ガイドライン」を改定した。
- 与論町地域部活動推進協議会を設置し、地域移行に係る取組を開始した。
- 8月に、9つある部活動のうち、サッカー部と吹奏楽部の休日の活動を地域に移行した。

済

令和4年度

- 6月に、卓球部と剣道部の休日の活動を地域に移行した。
- 地域指導者の退任に伴い、吹奏楽部の地域指導者をSNSを活用して募集し、新たに任用した。
- 地域部活動推進協議会を開催(年4回)したとともに、地域部活動マニュアルの改定を行った。

済

令和5年度

- 退任したサッカーの地域指導者の代替者を確保した。(剣道部は7月をもって休部に入った。)
- 11月に、野球部の休日の活動を地域に移行した。
- 地域部活動推進協議会を開催(年4回)したとともに、地域部活動マニュアルの改定を行った。

済

令和6年度

- 9月から女子バレー部の休日活動を地域に移行した。
- 地域部活動推進協議会を開催(年4回)し、地域部活動マニュアルを見直した。

済

令和7年度

- 地域部活動推進協議会を開催(年4回)するとともに、地域部活動マニュアルを見直す。
- 弓道部などの、休日の活動を地域に移行できる可能性が高い部活動について、関係者と合意形成を図る。
- 地域部活動推進協議会事務局の所掌事務の、ヨロンSCへの移行を開始する。

令和8年度以降も、休日の運動部活動の地域移行のための取組を着実に推進する。